



愛川ふれあいの村 今月の風景

2022年4月 自然のたより

新学期。ソメイヨシノが登校している子らを桜吹雪でさらさらと祝福していました。登校をしている子らの中に、真新しいランドセルが混ざっているのがわかりました。サイズが合っていないのか、はたまた学校に行く喜びなのか、そのランドセルが揺れているように見えます。ふと、道端に目をやるとひょこひょこことつくしが顔を出していました。短いものだったり、長く伸びているものがあったり、風に揺れながら生えている姿は愛らしく、こちらも新学期を迎えてみんなでワイワイとおしゃべりしているようでした。(林田)



アカネスミレ



オオバヤシャブシ



ウグイス



村内散策のコジュケイ



ウメとシジュウカラ



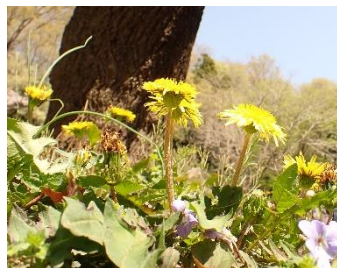
ツグミ故郷を思う



仲良しカラス



ヤブキリとヤマブキ



カントウタンポポ



リュウキュウサンショウクイ



水浴び中のアオジ



ミツバツツジ



トウゴクミツバツツジ



スミレ



タチツボスミレ

トピックス ★花七日★

今年も村は桜に包まれた春を迎えられました。不思議と例年よりも開花から散るまでが長く感じられました。「花七日(はななぬか)」ということわざがあります。盛りの短さは儂いことを表します。このモデルとなっているのが桜なのです。

ここ数年は満開に近い時期に限って、強風や大雨に見舞われて「花三日」なんて年もありました。

雨の日には水たまりや流れる水に桜の花弁が浮かび、それはそれで綺麗なのですが、やはり満開の桜も長く楽しみたいですね。

ですが、今年は10日近く満開を維持してくれている桜が多くありました。

晴天時には見上げると、空の青さが背景となり手前の桜がよく映えました。

花七日のように儂いからこそその魅力も桜にはありますが、それ以外にも愛川ふれあいの村では剪定した桜の枝を用いて「木のスプーン・フォーク」のクラフト体験が出来ます。桜の木の独特な触り心地や香り、枝一本一本ごとの形の個性や魅力を体感できます。もしよければ、作りに来てみませんか？

(鎌形)



生き物 ★マヒワ行方不明★

愛川ふれあいの村に勤務して2度目の冬が終わりました。今年の冬は去年よりも寒い日が多かった印象があります。野鳥たちの冬はどうだったでしょうか。とても残念だったのはマヒワが1度も観察出来なかったことです。去年は2月の初めに村にやって来て以降、3月末までほぼ毎日、10羽から、多い時は40羽ほどの群れが観察出来ました。オオバヤシヤブシやヤマザクラの梢でチュクチュク鳴きかわして、数羽飛び立つと、まるでゴマをまき散らしたかのように次から次と飛び出し、こんなにいたのかとビックリさせられます。鳥たちに国境はありません。今頃は大空を故郷のシベリアに向って飛んでいることでしょう。来年はあの騒がしい群れが村に来てくれることを楽しみにしています。(高梨)

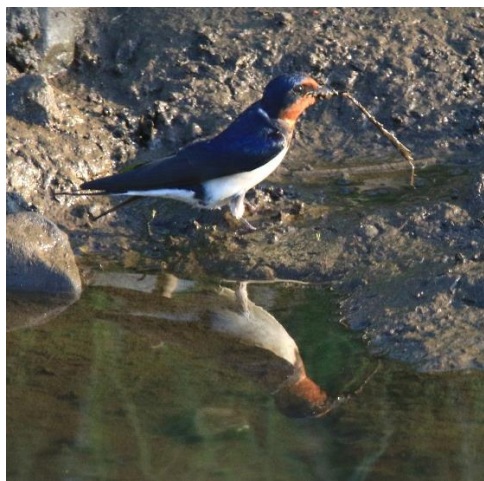


旬 ★セリ★

『セリ』といえば正月の七草粥を思い浮かべるのではないのでしょうか。シャキシャキとした食感と爽やかな香が特徴です。セリはセリ科セリ属の多年草で、日本全国の山野で自生しています。

数少ない日本原産の野菜の一つで、古く奈良時代から食用とされていました。β-カロテン・ビタミンC・食物繊維・カルシウム等栄養価が高いため、いろいろなお料理に使われます。

お浸し・ナムル・お粥・鍋(秋田の郷土料理きりたんぼ鍋)等、鮮やかな緑でお料理が華やかになります。お気に入りのお料理で春を味わってください。(菅原)



来月の見どころ
愛鳥週間に思う
地球温暖化に拍車をかけるような開発そして戦争、人間に起因する問題が世界中の人々の心を悩ましています。愛鳥週間は、五月十日から五月十六日の一週間です。野鳥保護思想の普及及び野鳥を取り巻く様々な環境保護や人との触れ合いを大切に行っています。ふれあいの村では、夏鳥で日本三鳴鳥の一種オオルリの美しい歌声を聞くことが出来ます。
数年前、生徒たちとツバメ調査をしたことがありました。ツバメの糞一穹の中に羽アリやハムシなどが沢山ありツバメのお陰で自然のバランスが保たれているのを感じました。最近減少傾向のツバメたちは、長い旅をして渡ってくるだろうかと心配です。巣作りが出来ないように泥の船を用意しました。自然はお互いに支え合い助け合って生きています。人間もお互いを尊重し助け合って生きていきたい。(吉田)